

# 福井の幕末明治 歴史秘話

## <第21号>

### せご 西郷どんと交流を深めた幕末明治の福井の先人達 ~番外編 ~弟同士の交友 西郷従道と橋本綱常~

平成28年11月18日発行

今回は、西郷隆盛と橋本左内、それぞれの弟同士の交友を取り上げます。  
橋本左内と西郷隆盛は將軍継嗣問題を巡る対応で交流を深め、隆盛が左内の手紙を自身の死ぬ間際まで持っていた逸話が残るなど親しい間柄でしたが、それぞれの弟、橋本綱常（つなつね）と西郷従道（つぐみち）も親交があったと言われています。



橋本綱常

綱常は、弘化2（1845）年6月、福井藩藩医の橋本家の四男に生まれます。兄左内と同じく儒学者吉田東篁に学びました。8歳で父と死別し、安政2（1855）年、11歳の時、左内が藩医を辞して越前藩御書院番になると、家業を継承し藩医となりました。



西郷従道

一方、従道は、天保14（1843）年5月、隆盛の15歳年下の弟として生まれます。  
9歳のとき両親と死別し、兄隆盛を親代わりとして成長しました。

二人のつながりは、陸軍時代に始まります。綱常は、明治10（1877）年7月に陸軍軍医監・本病院に出仕後、軍医総監・軍医本部長、陸軍省医務局長と陸軍の軍医として地位を高めました。また、従道は、明治2（1869）年、山縣有朋と兵制研究のため渡欧（プロイセン、フランス、ロシア）し、帰国後、兵部権大丞陸軍少将、陸軍大輔など出世し、明治11（1878）年には、陸軍卿となります。西南戦争では兄に組せず、政府に留まりました。

二人には、こんな逸話が残されています。従道は、自邸の引越しをした際、思いをこめて育てた大切な庭木を全て綱常に譲ることにしました。従道は平河町の綱常の家を訪れ、自ら庭師を指揮して植樹をさせたと言われています。二人とも、気が大きく朗らかな性格で、当時、庭木を譲るということは、真に遠慮のない心の通じた交際をしていた表れでもあります。

その後、綱常は当代一の名医として知られるようになります。従道は綱常の診断をしばしば受けており、心身ともに良き理解者としてその関係は続いていきました。このほか、伊藤博文や井上馨、山縣有朋等も診察し、中には、あの左内の弟に会えると懐かしがって訪れる元勳もいたと言います。綱常は、明治20（1887）年には、日本赤十字病院の初代院長にもなっています。また、従道は、明治27（1894）年に海軍大将となり、内閣総理大臣にも再三推される人物となりました。

明治期に近代日本の基礎固めを進めた二人。その功績が兄たちに引けをとらないだけに、兄と同様に親交があったことが不思議な縁に感じられるエピソードです。 <参考資料> 橋本綱常先生(日本赤十字社病院発行)

#### ～幕末ふくい歴史紀行～ [橋本左内生家跡]

・福井を代表する幕末の志士、橋本左内。その生家跡には、現在、民家が建っていますが、左内の産湯に使われたという産湯井戸跡や、啓発録の石碑が今も残されています。弟の綱常も同じ地で生まれています。

【住所】福井市春山2丁目（JR福井駅からすまいるバス（西ルート）で呉服町商店街下車 徒歩5分）



左内生家跡 啓発録碑

#### ★お知らせ 明治大学・福井県連続講座で「明治国家のプランナー 渡辺洪基」を開催！

- ・明治大学駿河台キャンパスで、11/26(土)から始まる連続講座の第2回として開催(13:00~14:30)
- ・明治初期に外交官として欧米諸国を歴訪、東京府知事(第9代)や帝国大学(現在の東京大学前身)初代総長などを歴任し、明治の近代国家づくりに奔走した渡辺洪基の生き方、考え方に迫ります！

【住所】東京都千代田区神田駿河台1-1(TEL 03-3296-4423) JR「御茶ノ水駅」徒歩3分